

JAMSTEC

Report

実物に感動、体験で納得
海洋科学技術と触れあう一日

海洋科学技術施設 一般公開を開催

横浜研究所で初公開されたスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」(横浜)

毎年恒例の「海洋科学技術施設一般公開」が今年も開催された。今年は、横須賀本部の施設公開に加え、昨秋にオープンした横浜研究所も初の一般公開を行い、世界最高速のスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」を公開。横須賀本部では、昨年進水式を終えた地球深部探査船「ちきゅう」に関する講演や展示などが注目を集めた。

当日は天候にも恵まれ、横浜研究所には1,030人、横須賀本部には3,672人もの人が訪れた。海洋科学技術の普及・啓蒙は、研究・調査といった通常のセンターの業務に加えもうひとつの大きな責務だ。海や科学と疎遠な方々にもその面白さを知っていただくと同時に、未来を担う若者たちが地球科学に関心を持つ機会を創出し、センターの活動を広く報告する場として、このイベントは重要な役割を担っている。研究員も最新の技術や研究を、やさしく楽しく理解してもらえよう、実験や装置、展示パネルなどに様々な趣向を凝らして説明にあたった。



インターネットブースで、子どもたちもデータベースにアクセス！(横浜)



地球シミュレータのCPU数にちなんで、昨年の開所以来5,120人目の来場者に記念品が贈られた(横浜)

熱気にあふれるくぬぎやま 桐山氏のセミナー(横浜)



海洋調査船「かいよう」の体験クルーズも行われた(横須賀)

記念写真はその場でカレンダーにして、プレゼント(横須賀)



横浜研究所の公開日は4月19日(土)。「横浜のもう一つの地球を見てみよう!」をテーマに様々な催しが行われた。初公開の「地球シミュレータ」では、体育館ほどの巨大なスペースに320の計算機キャビネットと65のネットワークキャビネットがずらりと並ぶ光景に、見学者たちも思わず驚きの声をあげていた。三好記念講堂では地球シミュレータセンターのくぬぎやまのりこ 桐山典子氏のセミナー「人と地球のやさしい関係」も開催。地球シミュレータが自然との共生関係を取り戻すために果たす役割などをわかりやすく紹介した。家族連れに好評だったのは有人潜水調査船「しんかい6500」の3D映像などが見られる映像展示室。半球スクリーンやマルチスクリーンに次々と浮かぶダイナミックな地球の姿は、理屈抜きで子どもたちを未知の世界へと案内してくれたようだ。図書室の資料やDVDなども公開され、インターネットブースでは沖縄県名護市のGODAC(国際海洋環境情報センター)のホームページなども紹介。子どもたちも手慣れたキーボード操作で、データベ



海の男の「技」も伝授(横須賀)

ースを次々に再生しては楽しんでた。

一方、横須賀本部の公開は5月10日(土)に行われた。「ものしり体験! 海と地球」というテーマに合わせ、日頃見られない研究機器の「見学ツアー」や「高圧環境実験」をはじめ、多くの体験型プログラムが実施された。

埠頭には海洋調査船「かいよう」と支援母船「なつしま」が停泊。船内見学はもちろん、ロープワーク教室も開かれ、制服姿の船員の指導で子どもたちも大奮闘。予約者を対象に「かいよう」の体験クルーズも行われ、船の前の賑わいは終日続いた。

生き物の展示や実験コーナーも好評だった。八景島シーパラダイスの協力による「体感ミニ水族館」をはじめ、生きたチューブワームや水深1,200mの深海から捕獲した深海魚「アカドン

コ」、100気圧の環境を再現するディープ・アクアリウムで飼育されているゲンゲなど、センターでしか見られない深海生物には、子どもも大人も興味津々。ペットボトルで波浪発電の原理を体験する実験や、パネとおもり 錘を使い活断層で地震が起きる原理を再現する装置などには「物理は難しいけど、目で見ると納得できますね」と年配の見学者も満足そうだった。

また、セミナー室では、地球深部探査船「ちきゅう」や 燃料電池探査機など4つのテーマで講演会が開催された。「ちきゅう」については、海洋科学技術館に解説パネルや、ドリルビットの作動模型も展示され、注目を集めた。

「触ったり、参加できるコーナーが増えて子どもたちも喜んでます。スタンプラリーやクイズは、楽しく展示をまわっていいですね」と語ってくれたのは、毎年子どもたちと見学に来るといふボーイスカウトの引率者。子どもたちも「ROVの操作が楽しかった」「恐竜クイズは正解したよ」などと元気に答えてくれた。小さな子どもからご年輩まで、今年も多くの人に海洋科学、地球科学の面白さに触れていただけたいい機会となったようだ。



プレートの動きを目の前で再現(横須賀)